

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.39 (2000.2.14号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 2000.6.9. ; 7,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

被災地発

全国のみなさんへ「震災は終わっていません！」

〔阪神大震災生活支援〕

遠く遠方より、物・心両面に亘って、支援活動を支えて下さっている、全国の皆様、変わらぬご支援ありがとうございます。

毎週通っていた、神戸市最後の仮設住宅“西代仮設”（長田区）の最後の行事には、地元の駒ヶ林中学や大阪の松原第三中学の皆さんなど、多くのボランティアが応援にかけつけました。

又、仮設全廃（12月）後も、全国各地よりカンパや手紙が届き、特に、横浜の「文の友」の皆さん、大阪の鶴橋小学校、建国小学校の皆さんからは、被災された方に宛てた沢山の絵手紙などが届けられ、早速届けることができました。ありがとうございました。

震災で、肉身を亡くし、職も失くし、わずかに残された蓄財も、この5年間で使い果たしてしまわれた方々が、この度の仮設全廃により、わずかな心のよりどころであった人のつながりも失くされ、さらに追い打ちをかけるように、地域の集会所やボランティアの拠点も、この3月で、閉鎖を余儀なくされようとしています。

次々と衰弱死や自殺が続いています。そんな中、当協会が出張所を置かせて頂いていた西代仮設・長寿友の会（長尾代表）は移転後も活動を続け、わたしたちも引き続き拠点を置かせて頂いて、共に支援を継続して行きます。

この1月24日から29日まで、前号で紹介した韓国の安山工科大学・社会福祉研究会の一行、16名が当協会を訪れ、その間、被災地も訪問し、共に震災支援協力を約し、28日には、正式に姉妹縁組を結びました。（中折れ記事参照）

3万世帯をこえるといわれる県外被災者の方々は、元より地元復帰のメドすら立っていません。ますます見えにくくなる震災の傷跡を癒すためには、より広くつながった強力なケアが必要です。全国の皆さま、励ましの手紙や支えるカンパなど、より一層の応援・支援をお願い致します。

<鄭チョン>

〔写真あり 神戸市最後の仮設住宅「西代仮設」の最後の“もちつき”に、応援に駆けつけた、地元の駒ヶ林中学（手前太鼓）と大阪の松原第三中学（後方手話コーラス）他のみなさん 省略〕